



Follow the Reflections

Masaaki Suzuki

Cover:
afterimage of the night (crossing) *Detail
2024 | 727 × 910 mm
oil on canvas

1p:
afterimage of the night (from the footbridge) *Detail
2024 | 1818 × 2273 mm
oil on canvas



Follow the Reflections
Masaaki Suzuki

敗北の絵画——鈴木雅明 “Follow the Reflections”

安井海洋

書物史研究・美術批評

ひと口に二十年といっても、漫然と過ごすには短く、ひとつの物事を継続するには長い。実に二十年、鈴木雅明は夜景と向き合ってきた。「百万ドルの夜景」と呼ばれる類のパノラマの夜景ではない。眼の高さから見えるだけの街角の風景である。郊外を夜に歩き、写真に撮ってから絵に描く。休止した期間があったとはいえ、美大在学中から現在まで、鈴木は人工の光が照らす夜の街並を描き続けてきた。ある物をそれだけの長きにわたって凝視するという体験は、誰にでもあることではない。

時を経れば、人だけでなく都市にも変化が生じる。今や公共空間の照明のほとんどが蛍光灯からLEDに切り替わったことは誰もが知っているが、その変化を実感として記憶している者はおそらくほとんどいない。個別の光源の特徴をルクスやケルビンといった単位に分けて記録することは可能である。しかし、白熱電球のあたたかみや、蛍光灯のちらつきは、網膜で認知はできても緻密な言語に付すのが難しい。感覚という内在的な要素を、共有可能な記録の水準にまでもっていくことに無理があるのだ。かつて夏目漱石は東京の市街に白熱電球が普及していく「あかり革命」の一断面を『明暗』に書き留めたが（藤井淑禎『小説の考古学へ』名古屋大学出版会、2001年）、長期的な変化を捉えるのは容易ではない。

しかし鈴木は、ある都市の三つの郊外を二十年以上眺めている。たとえ夜景ばかり描き続けているように見えても、絵のスタイルはゆっくりと変化を遂げ、光の質もそれに付き従うかのようにならっていく。本展ではこの長い散歩を記念するかのよう、蛍光灯時代の旧作と、再びその作品と同じ場所に立って描いた新作が並んでいる。両者を比較すると、見慣れたはずの夜の光がいかに変わってしまったかが浮かびあがるだろう。ただし忘れてならないのは、絵画というものは客観を志向した記録よりも、むしろ画家の身体を濾過した記憶に近いということである。白色LEDは長時間安定した光を発し続ける。そこには白熱電球の温度も、蛍光灯の眼を突く粗さもない。仮借ない硬質の白である。一方で、鈴木は描くLED灯はぼんやりとしている。画面上での混色を巧みに用いることで、中央から周縁に拡散する諧調として描くのである。

画家の役目は、常人の眼に映らない現象に輪郭や色彩といったフィクションを付すことで、それを現出せしめることにある。まして光の表現が有史以前からさまざまなフィクションを凝らされてきたことは、逐一例を挙げるまでもないだろう。鈴木はクリアなLEDをぼんやりと、不安定な蛍光灯をクリアに描くという逆転を試みせるが、この描法は画家の身体から発されているように思われる。人間の眼は一点をじっと見つめていると、対象が明瞭になるどころかかえってぼやけてくる。視覚は注意の持続の限界に縛られているわけだが、鈴木は絵画はそうした認知の特徴を表象しているのだろう。

ところで、人工の光が茫漠と描かれるのは視覚の性質のためだけではない。その証左に、街灯以外のモチーフもまた茫漠としているからである。写真を見て絵に描いてはいるのだが、写真はあくまで画家がその場所に身を置いたときの記憶を想起するためのきっかけにすぎないという。つまり、街灯に照らされた木々のゆらぎや葉擦れの音、歩道橋の上から車道の奥行きを見渡す視線、通行人の伸びてゆく影など、写真に残らない音や運動が視覚化されているのである。また、葉や人の残像（作品名のafter imageはそのまま残像を意味する）は、必ずしも実際に動いていたものを捉えたわけでないという。それはむしろ、画家が感じ取った時間の流れ、空間の膨張と収縮の表象である。すなわち残像は鈴木が見た世界のアイデアである。

書道史・文字文化研究者の古賀弘幸は、ブックデザイナーの戸田ツトムの仕事を評して次のように述べる。「その循環＝経済＝運動、擦過傷の感覚の滞留と減衰、そして再浮上のありようは、網膜を舞台にした残像のようなものであるだろう。通常、残像は主に神経心理学の視覚的な現象として語られる。それは最初に与えられた視覚情報が中断された後に消えていこうとするが、減衰しながらも残り、次の生成（書き込み）を予告しようとする。そのような意味でノイズ＝傷は常に未完である」（『ノイズと平仮名』『ユリイカ1月臨時増刊号 総特集●戸田ツトム——1951-2020』2020年12月）。残像とはAからBへの推移に生じるあわいを指す。物がそこにあるわけではなく、網膜の上に一刹那だけ存在する。そのまさにゴーストのごとき存在の形態

が、アイデアという実体なきものを容れる器にふさわしい。

最後に、郊外という問題に立ち戻ろう。郊外は一般に都市の周縁に位置する住宅地を指すが、鈴木は描く市街地には文字やランドマークがない。場所の特定につながるモチーフを周到に消すことで、眼前の夜景を無名の景色にするのである。

百万ドル式の夜景には用途があると鈴木はいう。観光であれ俗流ロマンティズムであれ、著名な夜景は意味づけられ、使用されていると。彼が歩いてきた夜景はそうではない。誰も気に留めず、言葉にされることもなく、それでも人びとが住まう郊外の、無名の景色である。ここでいう郊外とは、都市の中心に対する周縁であると同時に、現代美術のメインストリームに対するそれでもある。美大生の頃から、美術市場で評価されて華々しく活躍する作家と、彼ら彼女らをとりにまき同じ道を歩もうとする同世代の若手たちを横目に、周縁を伝い歩いてきたという自覚が彼にはある。半ば偶然に選び取った風景画という表現は、絵画史においては王道であるものの、今や古色蒼然とした響きがある。そもそも絵画自体が、現在ヘゲモニーを握っているアメリカやドイツにおいては過去の遺物と化している。だがそのような周縁の地を、鈴木は二十年以上見つめてきた。彼と同じオルタナティブの散歩者たちの胸に、郊外の夜景は真っ直ぐに飛び込んでいくはずである。

Title

Mihiro Yasui

???

Text





afterimage of the night (from the footbridge)
2024 | 1818 × 2273 mm
oil on canvas



afterimage of the night
2024 | 1818 × 2273 mm
oil on canvas



センサーライト | sensor light
2004 | 1455 × 1120 mm
oil on canvas



afterimage of the night
2024 | 1455 × 1120 mm
oil on canvas



afterimage of the night (crossing)
2024 | 803 × 1000 mm
oil on canvas



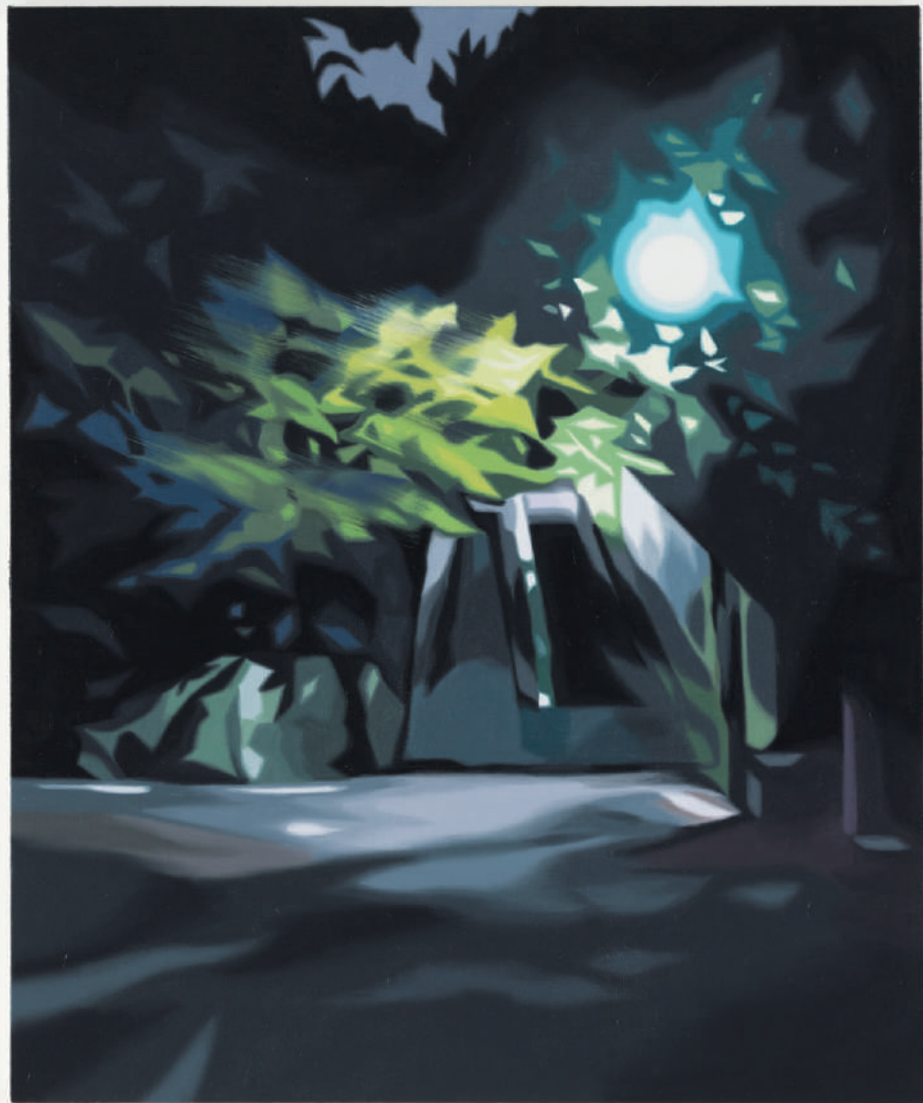
afterimage of the night (crossing)
2024 | 727 × 910 mm
oil on canvas



afterimage of the night (construction site)
2024 | 727 × 727 mm
oil on canvas



afterimage of the night (from the footbridge)
2024 | 606 × 727 mm
oil on canvas



afterimage of the night
2024 | 727 × 606 mm
oil on canvas



afterimage of the night (alley)
2024 | 727 × 606 mm
oil on canvas



afterimage of the night (from the footbridge)
2024 | 727 × 606 mm
oil on canvas



afterimage of the night (parking)
2024 | 455 × 530 mm
oil on canvas



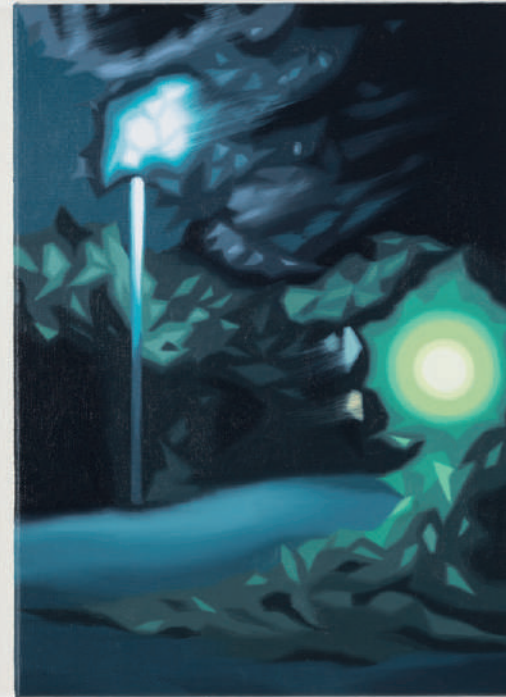
afterimage of the night (slope)
2024 | 455 × 530 mm
oil on canvas



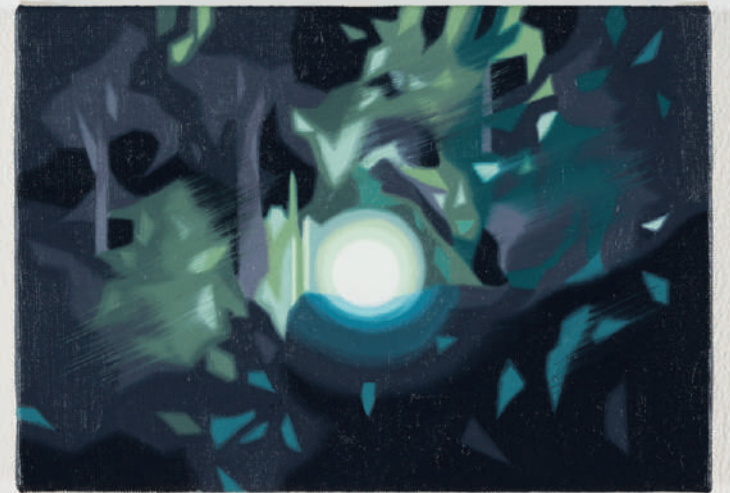
afterimage of the night (signs)
2024 | 530 × 455 mm
oil on canvas



afterimage of the night (from the footbridge)
2024 | 530 × 455 mm
oil on canvas



afterimage of the night (alley)
2024 | 333 × 242 mm
oil on canvas



afterimage of the night
2024 | 158 × 227 mm
oil on canvas

鈴木雅明

1981 愛知県在住
2004 愛知県生まれ
2004 名古屋造形芸術大学 洋画コース 卒業
2008 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科油画専攻 修了

主な個展

2024 Follow the Reflections | TEZUKAYAMA GALLERY
2023 Step into the Dark | BEAK585 Gallery, 大阪
2022 Artificial Light | ギャラリーヴァールール, 愛知
都市の光／机上の光 | 神戸元町歩歩琳堂画廊, 兵庫
机上の光 | ガレリアフィナルテ, 愛知
2018 複数から成るもの | ガレリアフィナルテ, 愛知
2016 screen | ガレリアフィナルテ, 愛知
2014 風景と塊 | ガレリアフィナルテ, 愛知
2011 ALA Project No.5 鈴木雅明 | アートラボあいち, 愛知
2010 鈴木雅明 展 | 松坂屋本店 美術画廊, 愛知
2009 鈴木雅明 展 | ギャラリーセラー, 東京
2008 Untitled 2008 | Bunkamura Gallery, 東京
2006 鈴木雅明 展 | TEZUKAYAMA GALLERY

主なグループ展・アートフェア

2024 ART FAIR TOKYO 2024 | 東京国際フォーラム, 東京
巡り来る自己：F collectionの一瞥 | N&A Art SITE, 東京
2023 Collector’s Collective vol,7 | TEZUKAYAMA GALLERY
2022 META FACE | YEBISU ART LABO, 愛知
Under Current 伏流 | 宝龍美術館, 中国(上海)
軌をたどる—5人の画家たちの“あれから” | 清須市はるひ美術館, 愛知
2019 Grafting 接ぎ木 | Art Space & Cafe Barrack, 愛知／
なえぼのアートスタジオ, 北海道
2013 CRASH×BUILD | アートラボあいち, 愛知
2012 MEMBERS SHOW | GALLERY GOHON, 愛知
2011 ART LINE 01 | masayoshi suzuki gallery, 愛知
AICHI GENE —some floating affairs— | 豊田市美術館 展示室9, 愛知
2010 GALLERY GOHON OPENING EXHIBITION | GALLERY GOHON, 愛知
2009 あいちアートの森 広小路プロジェクト | SMBCパーク, 愛知
第1回 青木繁記念大賞西日本美術展 | 石橋美術館, 福岡

受賞歴

2007 第26回 損保ジャパン美術財団選抜奨励展 | 秀作賞
2006 第21回 ホルベインスカラシップ | 奨学者
2005 シェル美術賞2005 | グランプリ
第4回 夢広場はるひ絵画ビエンナーレ | 夢広場はるひ大賞

Masaaki Suzuki

Lives and works in Aichi Prefecture
Born in Aichi Prefecture, Japan
2004 Graduated from Course Department of Oil painting,
Nagoya Zokei University of Art & Design
2008 Completed the Master Course in Oil Painting at Aichi Prefectural
University of Fine Arts and Music

Selected Solo Exhibitions

2024 Follow the Reflections | TEZUKAYAMA GALLERY
2023 Step into the Dark | BEAK585 Gallery, Osaka
2022 Artificial Light | Gallery Valeur, Aichi
City light / Light on the table | Kobe Buburindou Gallery, Hyogo
Light on the table | Galleria Finarte, Aichi
2021 Consisting of Plurals | Galleria Finarte, Aichi
2018 screen | Galleria Finarte, Aichi
2016 Landscape and Lump | Galleria Finarte, Aichi
2014 ALA Project No.5 Masaaki Suzuki | Art Lab Aichi, Aichi
2011 Masaaki Suzuki Exhibition | Matsuzakaya Main Store Art Gallery, Aichi
2010 Masaaki Suzuki Exhibition | Gallery Cellar, Tokyo
2009 Untitled 2008 | Bunkamura Gallery, Tokyo
2006 Masaaki Suzuki Exhibition | TEZUKAYAMA GALLERY

Selected Group Exhibitions and Art Fairs

2024 ART FAIR TOKYO 2024 | TOKYO INTERNATIONAL FORUM, Tokyo
A glance of F collection: The self that comes around
N&A Art SITE, Tokyo
2023 Collector’s Collective vol,7 | TEZUKAYAMA GALLERY
2022 META FACE | YEBISU ART LABO, Aichi
Under Current | Powerlong Museum Hall 4&5, China (Shanghai)
Follow the track —“from that” of the five painters
Kiyosu City Haruhi Museum of Art, Aichi
2019 Grafting | Art Space & Cafe Barrack (The first floor
TANERI BUILDING STUDIO), Aichi / Naebono Art Studio, Hokkaido
2013 CRASH×BUILD | Art Lab Aichi, Aichi
2012 MEMBERS SHOW | GALLERY GOHON, Aichi
2011 ART LINE 01 | masayoshi suzuki gallery, Aichi
AICHI GENE —some floating affairs— | Toyota Municipal Museum of
Art Gallery Exhibition Room 9, Aichi
2010 GALLERY GOHON OPENING EXHIBITION | GALLERY GOHON, Aichi
2009 Forest of art in Aichi : Hirokoji Project | SMBC Park-Sakae, Aichi
The 1st Memorial of SHIGERU AOKI Nishinippon Art Exhibiton
Ishibashi Art Museum, Fukuoka

Awards

2007 26th Outstanding Rising Artists Exhibition by Sompo Japan Fine Art
Foundation | Excellent Prize
2006 21th HOLBEIN Scholarship
2005 Shell Art Award 2005 | Grand Prize
The 4th Haruhi Biennial | Grand Prize



Left:
afterimage (back door)
2024 | 727 × 606 mm | oil on canvas



Top:
afterimage (window)
2024 | 350 × 270 mm | oil on canvas



Right:
afterimage (entrance)
2024 | 500 × 606 mm | oil on canvas

鈴木雅明 | Masaaki Suzuki
Follow the Reflections
2024.5.17–6.15

Masaaki Suzuki | Follow the Reflections
Published by TEZUKAYAMA GALLERY
www.tezukayama-g.com
Printed in June 2024
Text: Mihiro Yasui
Translation: Keisuke Kitanishi
Photo: Hyogo Mugyuda
Book design: Keigo Shiotani
Printed in Japan
© TEZUKAYAMA GALLERY, 2024
All Rights Reserved



TEZUKAYAMA GALLERY

Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie,
Nishi-ku, Osaka, 550-0015 JAPAN
Tel: +81(0)6 6534 3993 | E-mail: info@tezukayama-g.com
Url: www.tezukayama-g.com